



長崎市は、さまざまな観光資源を活かして魅力を高めてきたまちですが、今、未来を見据えた100年に一度の大転換期を迎えています。

昨年は出島に約130年ぶりに表門橋が架橋し、鎖国時代と同じように対岸から橋を渡って入場することができるようになりました。今後も、長崎市内では新幹線の開通や長崎駅周辺の再整備、交流拠点施設の整備、新市庁舎の建設、三菱重工幸町工場跡地の活用などの取り組みが進む予定です。

長崎の未来がカタチになっていきます。

寄稿:長崎市



平成28年4月にリニューアルした鍋冠山公園の展望台は知る人ぞ知る長崎の絶景ポイント。旧グラバー住宅や端島(通称・軍艦島)、ジャイアント・カンチレバークレーンなど、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の5つの構成資産を一望することができます。

Nagasaki City

長崎市

～今まさに変わるまちの未来～

鍋冠山

野母崎方面→

小菅修船場跡
(ソロバンドック)

どんどん坂

背景制作 長崎総合科学大学



新市庁舎イメージ

市民に親しまれ、つながりの拠点となる市役所を目指します。

2022年度の完成を目指し、旧公会堂及び公会堂前公園の敷地に新たな市庁舎を建設します。多くの市民が訪れる身近な手続きや相談の窓口を低層部分に集約して配置し、利便性を高めます。また、庁舎前には、市民がくつろいだり、さまざまなイベントが開催できたりする広場を整備するなど、市民に親しまれ、つながりの拠点となる市役所を目指して、整備を進めていきます。



初期構想イメージのため、今後変更する可能性があります

三菱重工幸町工場跡地 整備初期構想イメージ

ジャパネットホールディングスグループが三菱重工幸町工場跡地において“「長崎を生きる楽しさ」を！”をコンセプトにサッカースタジアムを中核とした整備構想を予定しているほか、新大工町地区や浜町地区でも、民間事業者による共同住宅や商業施設などの整備計画が進められています。



浜町地区再開発イメージ



新大工町地区再開発イメージ



駅舎・スロープカーともにイメージ

稲佐山に新たな魅力が加わります。

スロープカーの整備

長崎を代表する夜景スポット「稲佐山」で、中腹駐車場から山頂展望台までのアクセスの充実を図るため、2019年夏の運行開始を目指し、スロープカーを整備します。車両のデザインは、世界的な工業デザイナー・奥山清行氏が代表を務める株式会社KEN OKUYAMA DESIGNが行い、車両そのものが魅力的な意匠になることで、集客力アップにつながることを期待しています。

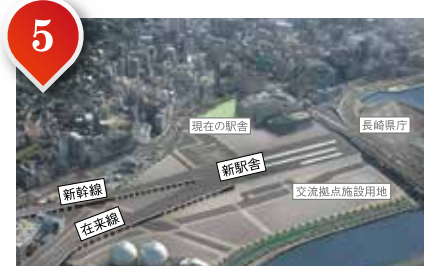


交流拠点施設イメージ

国内外から人を呼び込み新たな交流を生み出します。

交流拠点施設の整備

国内外から多くの来訪者を呼び込むとともに市民交流を促進するMICE施設、都市ブランドの向上を図るホテル、地域の賑わいと活力を生み出す民間収益施設を複合した交流拠点施設の整備について、2021年11月の開業を目指し、検討しています。たくさんの人を長崎に呼び込むことで、市民の働く場や機会を増やし、所得の向上を図り、定住促進につながる地域経済の好循環につながります。



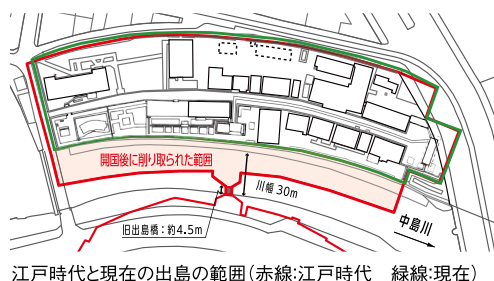
長崎駅周辺再整備イメージ

長崎の陸の玄関が大きく変わります。

長崎駅周辺再整備

長崎らしい駅舎や賑わいのある駅前広場が新しく整備されます。2020年には、連続立体交差事業により在来線が高架化されて複数の踏切がなくなり、交通混雑が解消されます。また2022年度には新幹線が開通します。全国の新幹線ネットワークにつながることで、観光やビジネスなどのさまざまな分野で人と人の交流が広がります。

出島



江戸時代と現在の出島の範囲(赤線:江戸時代 緑線:現在)

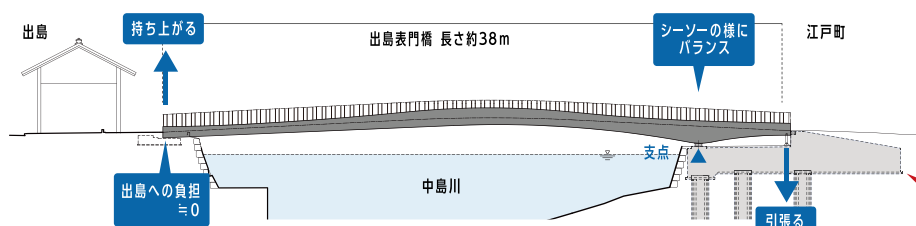
出島表門橋のココがすごい

出島表門橋は最新の技術が詰まった現代橋です。土木の分野における伝統の権威ある賞「土木学会 田中賞」を受賞しました。

17世紀に造られた扇形の人工の島「出島」。鎖国時代の約200年間、日本で唯一、ヨーロッパに開かれていた貿易の窓口でした。対岸とは長さ4・5メートルほどの石橋で結ばれ、人・モノ・文化等の交流がこの橋を通じて行われました。

明治時代以降、出島がその役割を終えると、周囲の埋め立てや工事によって、陸続きとなり、石橋も無くなりましたが、出島の果たした歴史的な役割を未来へ伝えるため、昭和26年から出島復元整備事業を開始。これまで16棟の建物を復元したほか、平成29年11月には、出島表門橋が完成し、約130年ぶりに橋を渡って入場できるようになりました。

当時と同じように対岸から橋を渡って足を踏み入れ、復元したまちなみを見ることができるようになった出島。あの扇形の姿を再び長崎で見るため、これからも100年プロジェクトとして取り組んでいきます。

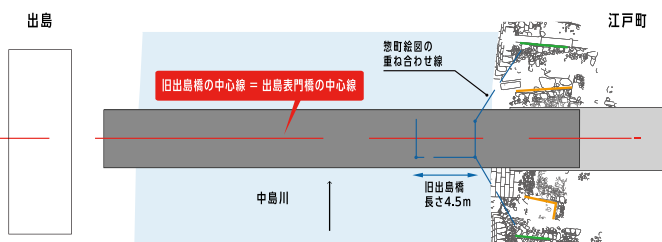


出島の保護に配慮したユニークな構造の橋です

国指定史跡・出島に大きな土台を設けず、地中の遺構を保護するため、「シーソーのように江戸町側でバランスを取った特殊な構造を持った橋」になっています。

旧出島橋の橋詰遺構

- 拡幅前(江戸時代前期)
- 拡幅後(江戸時代中後期)



江戸時代の旧出島橋と同じ位置に架かっています

旧護岸線、旧出島橋橋詰遺構の発掘調査結果と江戸時代に描かれた惣町絵図との重ね合わせから旧出島橋の架橋位置を推定し、同じ位置に新しい橋を架けることで動線の再現を行っています。



中華街方面から唐人屋敷跡を望む

Nagasaki
future



唐人屋敷跡

中国貿易の拠点として栄え、多くの中国人で賑わった江戸初期の長崎。当時の人口の6分の1が中国人だったと言われています。

現在の長崎に欠かすことができないお盆の爆竹や、ペーロン、龍踊り。これらは当時の長崎が中国文化に強い影響を受けていた証しです。特に隠元禅師が長崎を拠点に全国に広めた黄檗文化は当時の日本に大きな影響を与えました。

このような中、1689年(元禄二年)、密貿易の防止や宗教問題などを理由に幕府の政策で設けられた中国人居住区が唐人屋敷です。出島の約3倍の面積で、多い時は2000人を超える中国人で賑わいました。

安政の開港後に唐人屋敷の存在は影を潜め、中国人の活動の拠点は太浦の居留地や新地蔵所跡(現在の新地中華街)に移っていきましたが、今もこの界限には4つのお堂が残るなど、往時の様子をうかがい知ることができます。

現在、当時の唐人屋敷の様子を目に見える形で顕在化しようとする事業を進めています。平成26年には唐人屋敷跡の入り口として象徴門(大門)が完成しました。

今後も更なる顕在化を目指し事業に取り組んでいきます。

唐人屋敷跡の見どころ

当時の生活を偲ばせる出土品などを展示しています

「蔵の資料館」は、福建会館や観音堂の再建と同時期(明治26年)に建てられた蔵です。平成25年に曳家により移転し、現在は、唐貿易や唐文化の伝来史、実際の出土品などを展示した資料館として活用しています。



蔵の資料館(白い建物)外観



指輪や陶器などの出土品



パネル展示



中島川・寺町界限

長崎町家

和のたたずまいが
賑わいを誘う

長崎市の中心商業地がある浜町からほど近く、国指定重要文化財の眼鏡橋で知られる中島川・寺町界限。江戸時代には、藍染や桶屋など、まちを支えた職人が多く住んでいた町人のまちでした。

長崎の旧市街地には明治から昭和初期にかけて建てられた町家と呼ばれる長崎特有の和風建築が300棟

ほど点在していますが、特にこの界限には多くの町家が残っており、かつての町人の暮らしを垣間見ることができま

す。長崎市では、この伝統的な建築様式を活かしたまちなみづくりを進めており、町家の改修や町家風外観の整備に支援を行っています。

これまでこの支援制度を利用した建物は30軒を超えます。かつて、町家の都市とも評されたまちなみが少しずつ再生しています。



賑わいの進化

3年間で新しい店舗が
30店を超える

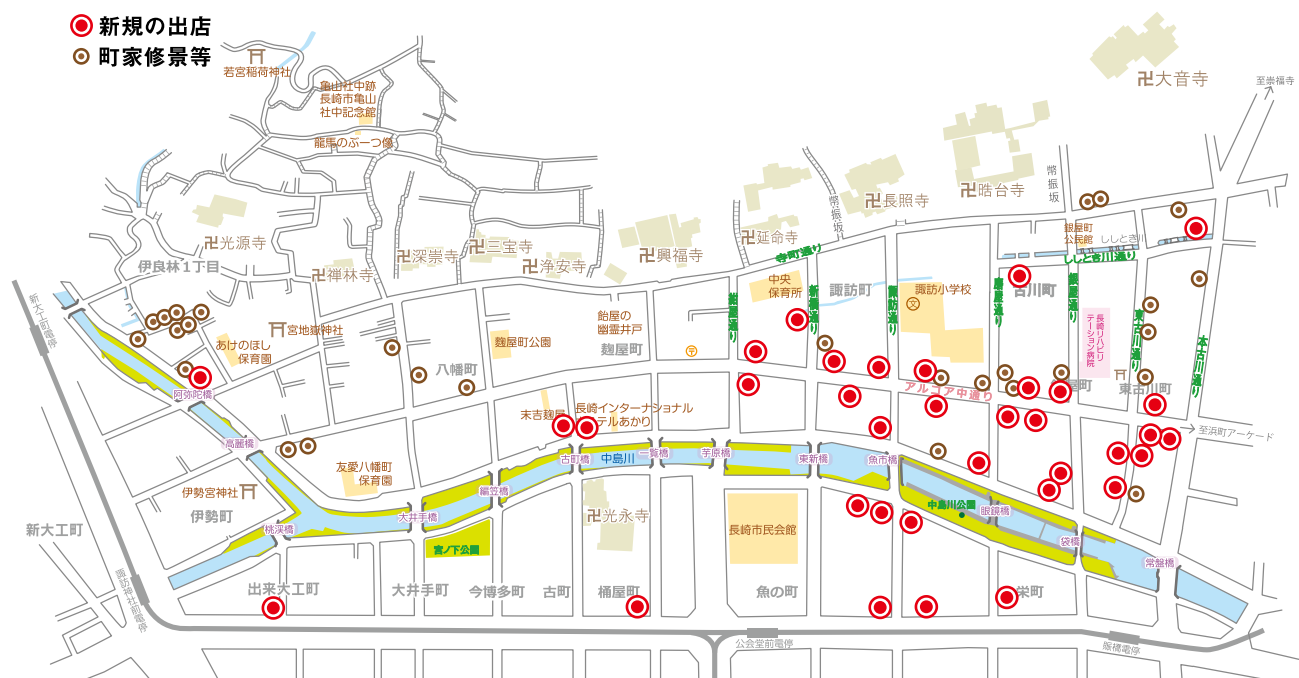
中島川・寺町界隈にあるアルコア中
通りの商店街は、長崎で一番古い商
店街と言われています。

平日・休日を問わず、今も多くの
人々が行き交っています。

近年、“和のまちなみづくりが進め
られているこの界隈では、雑貨屋、洋
服店、靴屋、本屋、カフェ・バー、飲食
店、お土産屋など、ここ3年間で30店
を超える店舗が新しく出店してお
り、まちの活気や賑わいを生み出して
います。

「このまちは、程よい道幅にお店が
並び、店舗同士の距離が近く、観光客
や市民の皆さんとの会話も生まれや
すい」と語るのは、この界隈の魅力に
惹かれている婦人服店のオーナー。

江戸時代から絶えず生まれ続ける
コミュニティと、顕在化していく和のま
ちなみが、この地域のエネルギーの源
になっています。



昭和の観光都市から 21世紀の交流都市へ

長崎市は独特の歴史や文化に育まれた魅力的な資源が多く、観光都市として、これまでに多くの皆さんを迎え入れてきました。

その長崎は今、時代の流れの中で、外国人観光客はもちろん、会議やイベントなどで訪れる人たちとの出会いを通じ、モノやヒト、情報の交流が活性化することで発展していくような、21世紀の交流都市への転換期を迎えています。

まちをもっと楽しく。

まちにもっと賑わいを

その一つとして、魅力ある多くの資源を活かして、まちをもっと面白く体験したり、まちに賑わいを呼び込んだりしようと、地域の人たちと一緒に「まちぶらプロジェクト」に取り組んでいます。

洋館と石畳のまちなみが広がる東山手南山手エリア、中華街や唐人屋敷跡などの中国文化を体験できる新地・館内エリア、平日・休日問わず多くの人が行き交う中心繁華街の浜町・銅座エリア、和の風情を感じられる中島川・寺町・丸山エリア、商店街や市場で長崎の食が楽しめる新大工エリア。南北約2.5kmの長崎のまちなかには、多様な個性が凝縮されています。

長崎を訪れる多くの方々が、「長崎のまち」を存分に楽しめるように、それぞれのエリアで、今回ご紹介したような個性を磨く取り

長崎市長
田上 富久



長崎 OOLOVERS

長崎市では、まちづくりの主役となる市民一人ひとりが、自分の好きな長崎を発信して盛り上げていく「長崎OOLOVERS」というプロジェクトに取り組んでいます。市民の皆さんをはじめ、企業・団体とも協働しながら進めています。



世界新三大夜景
(長崎・香港・モナコ)

「茂木」地区が大好き。長崎市内には魅力ある地域がたくさんあります！



長崎産のフルーツなどを使った美味しいスイーツで長崎を盛り上げたいです。



異国情緒たぶようまち長崎。いろんな国を旅している気分になります。



ペンギン飼育種類世界一
(9種類)



組みを進めています。

趣向を凝らしながら、
まちなかを快適に

たくさんの人で賑わうまちなかを快適に過ごしてもらうため、例えば、中華街がある新地地区や、かつて花街として栄えた丸山地区にある公衆トイレは、外観やサインをまちなみに合わせて整備しました。また、民間施設のトイレを開放する“おもてなしトイレ”という取り組みも進めています。

通りの舗装にもひと工夫ということで、古写真を参考にしながら昭和30年代の風情を体感できるように整備したり、地元で大事にされている神社の参道をイメージしたデザインにしたりと、地域の皆さんと協力しながら、環境を整えています。

新たな楽しみや発見を
探してみてください

これまで、県外からの観光客や修学旅行生は「グラバー園」や「出島」などの代表的な観光地巡りで満足されていたかもしれませんが。

しかし、「一度、長崎に行ったことがある」というかたも、次に長崎に来たとき、まちなかの観光地から通りをひとつ入ったり、路地に足を運んだりすると、きっと、新たな楽しみや発見がありますよ。長崎のまちにはワクワクがたくさん詰まっています。あなたが知らない長崎をぜひ体験しに来てください。



★長崎市 × 親和銀行



長崎市内の各店舗では、さまざまな装飾で、“長崎〇〇 LOVERS”を盛り上げています。



長崎港松が枝国際ターミナル等でクルーズ客船で訪れる外国人観光客等向けに、両替機を設置しています。



親和銀行
長崎市役所支店の皆さん